

(第1面)

## 特別管理産業廃棄物処理計画書

令和5年 6月 9日

茨城県知事  
大井川 和彦 殿提出者  
住 所 茨城県筑西市小川1500番地  
氏 名 リンクステック株式会社 下館工場  
工場長 牛島 裕之  
電話番号 0296-20-2237

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	リンクステック株式会社 下館工場
事業場の所在地	茨城県筑西市小川1500番地
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	電気機械器具製造業
② 事業の規模	前年度の製造品出荷額 87億円
③ 従業員数	323人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙参照（〔1〕産業廃棄物の一連の処理の工程 に記載）

(日本工業規格 A列4番)



## (第2面)①

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
〔管理体制図〕 別紙参照（〔2〕管理体制 に記載）			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	〔前年度（令和4年度）実績〕		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	
	排 出 量	≥ t	t
	（これまでに実施した取組） ・生産に伴うロスの低減及び歩留まり向上 ・毎月開催される環境管理委員会で、発生量、改善計画、実績を報告し、 <b>その内容を各職場のミーティングで一般従業員に教育</b>		
②計画	〔目標〕		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	
	排 出 量	≥ t	t
	（今後実施する予定の取組） ・生産に伴うロスの低減及び歩留まり向上対策を継続して推進する ・毎月開催される環境管理委員会で、発生量、改善計画、実績を報告し、 <b>その内容を各職場のミーティングで一般従業員に教育</b> 〔継続実施〕		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	〔分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕 別紙参照（〔3〕廃棄物分別基準 に記載）  廃油は、発生工程ごとにドラム保管し再資源化		
②計画	〔今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕  廃油は、発生工程ごとにドラム保管し再資源化〔継続実施〕		

## 特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

管理体制図)  
別紙参照（[2]管理体制 に記載）

## 特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

## ① 現状

## 【前年度（令和4年度）実績】

特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
排 出 量	517t	227t

〔これまでに実施した取組〕  
 ・生産に伴うロスの低減及び歩留まり向上  
 ・毎月開催される環境管理委員会で、発生量、改善計画、実績を報告し、その内容を各職場のミーティングで一般従業員に教育  
 ・使用材料変更による、酸及びアルカリ使用量の低減  
 ・高機能製品（薄物、小型）への転換及び製法転換による工程からの廃酸、廃アルカリ発生量低減

## ②計画

## 【目標】

特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
排 出 量	527t	231t

〔今後実施する予定の取組〕  
 ・生産に伴うロスの低減及び歩留まり向上対策を継続して推進する  
 ・毎月開催される環境管理委員会で、発生量、改善計画、実績を報告し、その内容を各職場のミーティングで一般従業員に教育〔継続実施〕  
 ・使用材料変更による、酸及びアルカリ使用量の低減〔継続実施〕  
 ・高機能製品（薄物、小型）への転換及び製法転換による工程からの廃酸、廃アルカリ発生量低減〔継続実施〕

## 特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

## ①現状

〔分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕  
 ・発生工程の廃液種類別にタンク保管し、中間処理委託後に再資源化

## ②計画

〔今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組〕  
 ・発生工程の廃液種類別にタンク保管し、中間処理委託後に再資源化〔継続実施〕

(第4面) ①

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	〔前年度（      年度）実績〕		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	〔これまでに実施した取組〕		
②計画	〔目標〕		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	〔今後実施する予定の取組〕		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	〔前年度（令和4年度）実績〕		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	
	全処理委託量	2 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	2 t	t
	再生利用業者への処理委託量	2 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	2 t	t
	〔これまでに実施した取組〕		
	<p>特管廃油は、職場単位にドラム保管し、  (a) 中間処理業者で複合炉の補助燃料として利用し、燃え殻はセメント補助原料又は埋立</p>		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃油	
	全 処 理 委 託 量	2 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	2 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	2 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	2 t	t
	【今後実施する予定の取組】  廃油は職場単位にドラム保管し、 (a)中間処理業者で複合炉の補助燃料として利用し、燃え殻はセメント 補助原料又は埋立【継続実施】		
電子情報処理組織の使用 に関する事項		【前年度（令和 4 年度）実績】	
		特別管理産業廃棄物 排 出 量 【単位：t】	2 t
		【今後実施する予定の取組等】 既に JW-NET にて運用管理中。	
※事務処理欄			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	〔前年度（      年度）実績〕		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	〔これまでに実施した取組〕		
②計画	〔目標〕		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	〔今後実施する予定の取組〕		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	〔前年度（令和4年度）実績〕		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全処理委託量	517 t	227 t
	優先認定処理業者への処理委託量	517 t	210 t
	再生利用業者への処理委託量	517 t	227 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	〔これまでに実施した取組〕		
	<p>廃酸は、種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからバキューム車で委託</p> <p>(a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキは、セメント補助原料化</p> <p>(b) 中間処理業者で焼却後金属精錬原料として再資源化</p> <p>(c) 中間処理業者で焼却、中和・凝集し、脱水ケーキは、土木材料として再資源化</p> <p>(d) 中間処理業者で中和・還元し、再生品として再資源化</p>		
	<p>廃アルカリは、種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからバキューム車で委託</p> <p>(a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキは、土木材料として再資源化</p> <p>(b) 中間処理業者で溶融後土木材料として再資源化</p>		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃酸	廃アルカリ
	全 処 理 委 託 量	527 t	231 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	527 t	221 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	527 t	231 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t
	〔今後実施する予定の取組〕 廃酸は、種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからバキューム車で委託 (a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキは、セメント補助原化〔継続実施〕 (b) 中間処理業者で焼却後金属精錬原料として再資源化〔継続実施〕 (c) 中間処理業者で焼却、中和・凝集し、脱水ケーキは、土木材料として再資源化〔継続実施〕 (d) 中間処理業者で中和・還元し、再生品として再資源化〔継続実施〕  廃アルカリは、種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからバキューム車で委託 (a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキは、土木材料として再資源化〔継続実施〕 (b) 中間処理業者で溶融後土木材料として再資源化〔継続実施〕		
	【前年度（令和 4年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 [町並びの環境様式]	744 t	
電子情報処理組織の使用に関する事項	〔今後実施する予定の取組等〕 既に JW-NET にて運用管理中。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分にに関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
  - 5 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
  - 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 3 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 3 ※ 欄は記入しないこと。



## 別紙

### (1) 産業廃棄物の一連の処理の工程

#### (1) 委託処理

##### ① 廃油

特管廃油は、各排出部署単位にドラム保管し

- (a) 中間処理業者で複合炉の補助燃料として利用し、燃え殻はセメント補助原料又は埋立。

##### ② 廃酸

種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからはバキューム車で委託。

- (a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキはセメント補助原料又は埋立。  
 (b) 中間処理業者で焼却後金属精錬原料として再資源化。  
 (c) 中間処理業者で中和・凝集・焼却し、脱水ケーキは土木材料として再資源化。  
 (d) 中間処理業者で中和・還元し、再生品として再資源化。

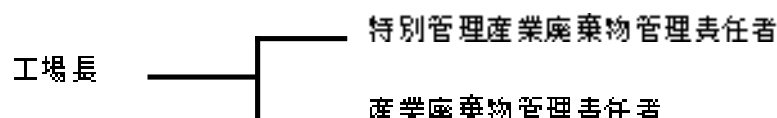
##### ③ 廃アルカリ

種類別に、専用のタンクに保管し、保管タンクからはバキューム車で委託。

- (a) 中間処理業者で中和・凝集し、脱水ケーキは土木材料として再資源化又は埋立。  
 (b) 中間処理業者で熔融後、土木材料として再資源化。

### (2) 管理体制

#### (1) 管理者



管理者名	職場名	役職名	役割
事業者	工場全体	工場長	事業所内の廃棄物管理統括
特別管理産業廃棄物管理責任者	資材部	資材部部長	事業所内の特別管理産業廃棄物の管理
産業廃棄物管理責任者	総務部	総務部担当部長	事業所内の産業廃棄物処理施設における産業廃棄物の適正処理に関する管理

#### (2) 対策組織

##### ① 産業廃棄物管理委員会

設計、生産技術、製造、リサイクルから11名の委員を選任し、以下のような項目について、発生量の削減、再資源化を推進。

	項目	内 容
1	発生量の削減	(1)製品製造時の歩留り向上 (不良、トラブル、品種切替え回数等の低減) (2)設備の集約化、品種統合による発生量の削減
2	減容化	(1)分別収集の推進による自社処理率の向上 (自社脱水設備等による減容化)
3	再資源化	(1)埋立廃棄物の分別による再利用、再資源化 (2)焼却廃棄物の分別による再利用、再資源化

廃棄物リサイクルに関する目標は、令和6年度末までに（再資源化率を98%以上）を達成、維持する。

##### ② 環境安全衛生管理委員会

環境管理システム（ISO14001）のチェック機構として1回/月開催し、廃棄物の発生量の削減状況を管理する。